

今日のキーワード ASEANの「PMI」(アジア)

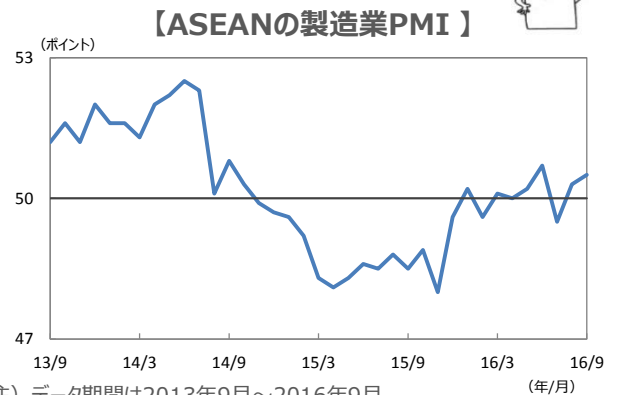
日本経済新聞社は、2016年8月度分より、ASEAN（東南アジア諸国連合）の製造業「PMI」（購買担当者景気指数）を公表しています。「PMI」は、景気判断について50を上回ると景気が上向き、50を下回ると下向きの兆候とされる景気動向の先行指標です。ASEANの製造業「PMI」は、インドネシア、ベトナム、シンガポール、マレーシア、フィリピン、タイ、ミャンマーの7カ国が対象です。

ポイント1 ASEANの「PMI」は50.5 2カ月連続の50超え

- 日本経済新聞社が3日発表した9月のASEANの製造業「PMI」は50.5と、景気判断の節目となる50を2カ月連続で上回りました。また、前月比でも0.2ポイント上昇しました。
- 国別でみると、「PMI」が50を超えているのは、フィリピン（57.5）、ベトナム（52.9）、インドネシア（50.9）で、これらの国は前月比でも改善しており、ASEANの「PMI」をけん引しています。
- 一方、「PMI」が50を下回っているのは、タイ（48.8）、シンガポール（48.6）、マレーシア（48.6）、ミャンマー（48.1）でした。ただし、マレーシアとミャンマーは前月比で改善しています。

ポイント2 フィリピンが高水準 タイはやや弱い動き

- フィリピンは、域内で最も高い水準を維持しています。輸出依存度が低いため中国経済の影響を受けにくく、内需の好調が製造業に波及している模様です。
- タイは、調査開始の15年12月以降で最低水準となりました。8月のタイ自動車生産台数が前年同月比で2カ月連続のマイナスとなるなど弱気みの動きです。



今後の展開 ASEAN経済は好調を維持

- ASEAN経済は、中国景気の減速によって輸出が不振に陥り、足踏み状態が続いていましたが、各国の財政支出の増加などを受けて、域内需要の増加に支えられた回復傾向が見られます。フィリピンやベトナム、インドネシアを中心に業況の改善傾向が続きそうです。景況感が低迷しているタイについても、17年の総選挙を控え、今後追加金融緩和など政策が総動員されることが期待されます。ASEAN経済は今後も財政政策や金融緩和に支えられ好調を維持しそうです。

ここも
チェック! 2016年10月 3日 上方修正された「アジア経済見通し」(アジア)
2016年 8月24日 好調なASEAN 4のGDP (2016年4-6月期)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。